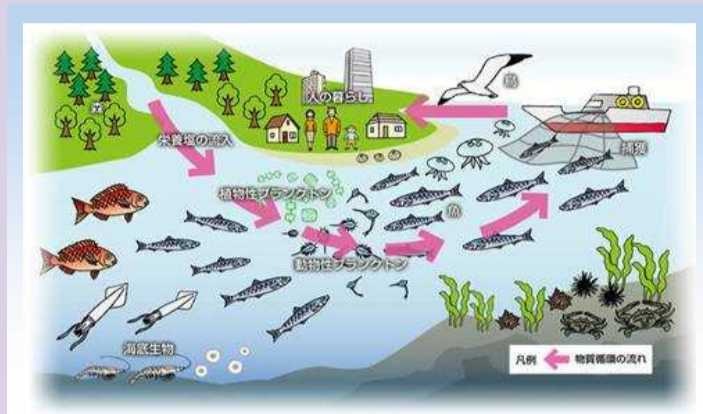


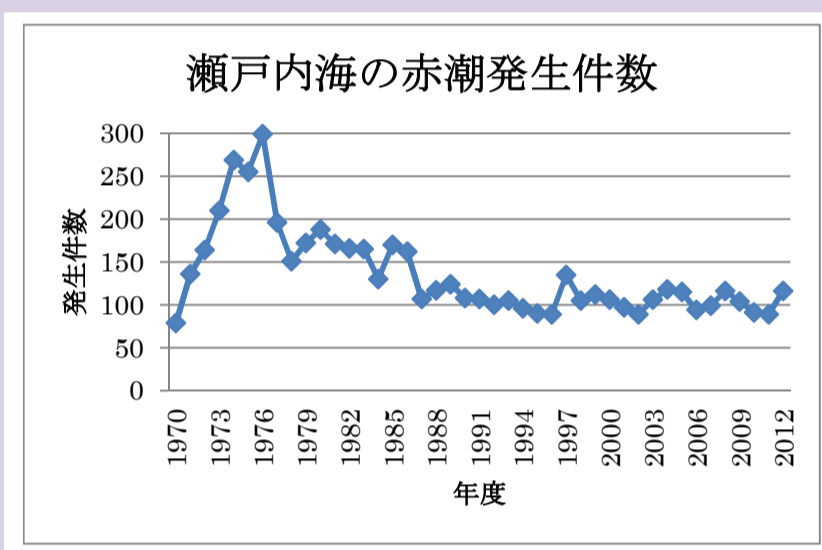
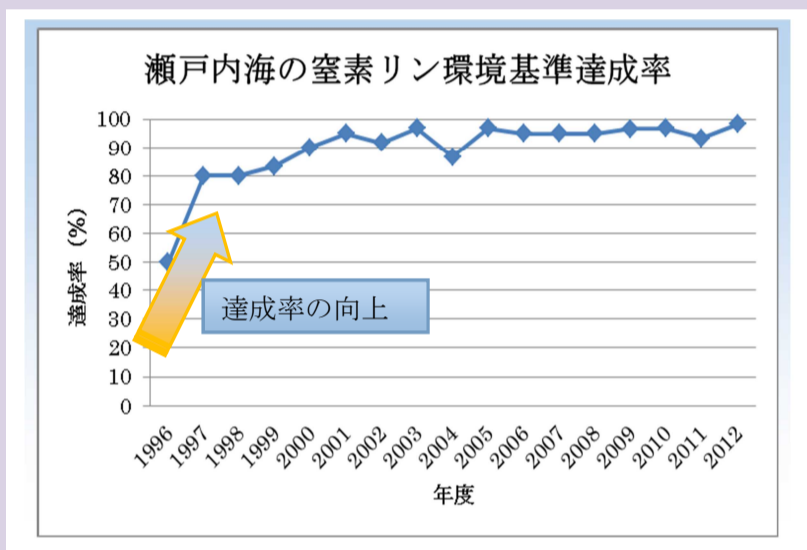
豊かな瀬戸内海の再生

1 瀬戸内海再生のこれまでの取り組み

- 1950年代 産業排水の大量流入（瀕死の海）
- 1973年～ 瀬戸内海環境保全特別（臨時）措置法で COD の量的規制、多発する赤潮対策としてリン削減指導（1978年）、窒素・リン濃度規制、総量規制（1994年）
- 2007年 瀬戸内海を再生するための新たな法整備の働きかけ（署名141万人）
- 2012年 第7次水質総量削減計画策定
 - ・生活排水処理施設の整備や総量規制基準の遵守等による水質の管理
 - ・藻場・干潟等の保全再生、栄養塩濃度季節別変動、管理運転等による栄養塩循環のための取組の推進



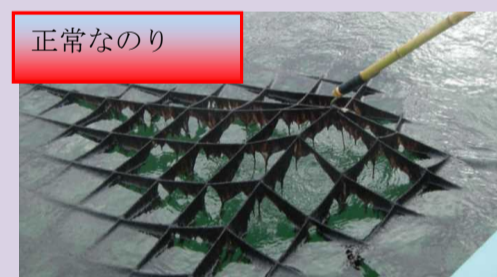
【環境基準の達成状況】



2 新たな課題

- ① 船漁業、アサリ等の漁獲量の減少、ノリの色落ち被害の頻発
 - ・ 漁獲量 485千トン（1985年）→175千トン（2009年）
- ② 赤潮は1976年の299件をピークに、近年は年100件程度に減少したが、被害は依然として発生
- ③ 藻場・干潟の減少
 - ・ 藻場 1960年→1990年で72%消失
 - ・ 干潟 1945年→2006年で42%消失
- ④ 漂流・漂着・海底ごみによる被害の顕在化

のりの色落ち



栄養塩の減少により90年代半ばからノリの色落ちが頻発

3 新たな取り組み

- 2013年 海域の物質循環健全化計画（ヘルシープラン）による栄養塩類管理方策の検討（下水処理施設の管理運転、ため池のかいぼりなど）
- 2014年6月 瀬戸内海環境保全特別措置法の一部を改正する法案が審議



里海のイメージ（環境省HPより）